

## 12月29日 フィリピン諸島、ミンダナオの地震

2018年12月29日12時39分(日本時間、以下同じ)にフィリピン諸島、ミンダナオの深さ60kmでMw7.0の地震が発生した。この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。フィリピン諸島付近には、フィリピン海プレートとユーラシアプレートの境界があり、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に概ね西北西向きに沈みこんでいる。

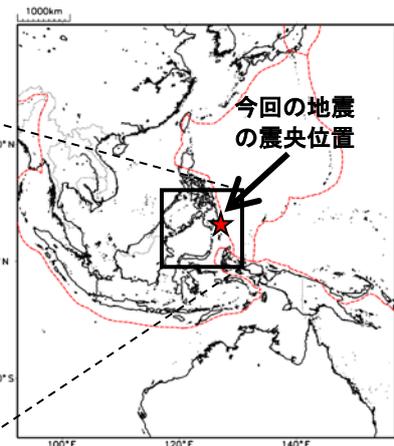
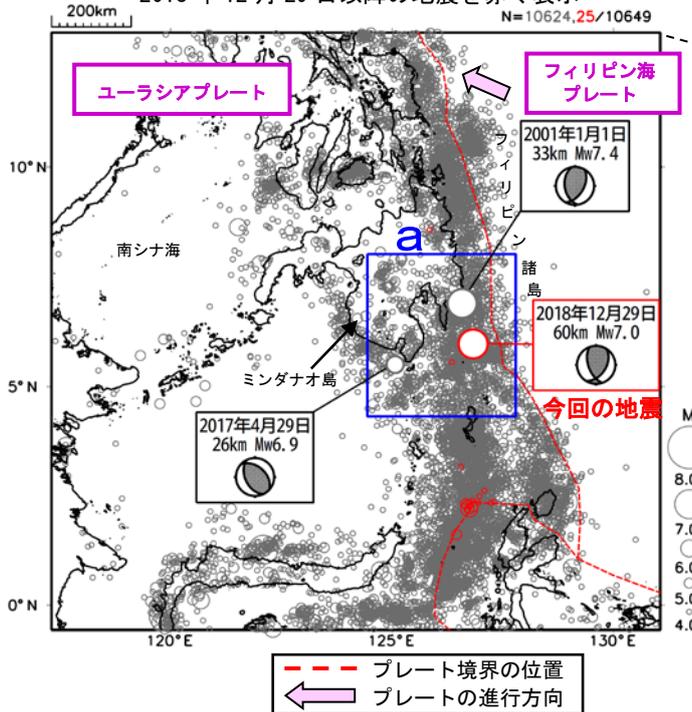
気象庁は、この地震に対して、同日12時57分に北西太平洋津波情報を発表し、同日13時01分に遠地地震に関する情報(震源の近傍で津波発生の可能性あり、日本の沿岸で若干の海面変動の可能性あり)を発表した。

2000年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域a)では、M5程度の地震が度々発生している。2017年4月29日には、今回の地震の震央の西約200kmでM6.9の地震が発生し、死者8人等の被害が生じた。1910年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域b)では、M7を超える地震が度々発生しており、1976年8月17日にはMw8.0の地震が発生し、死者8,000人等の被害が生じた。

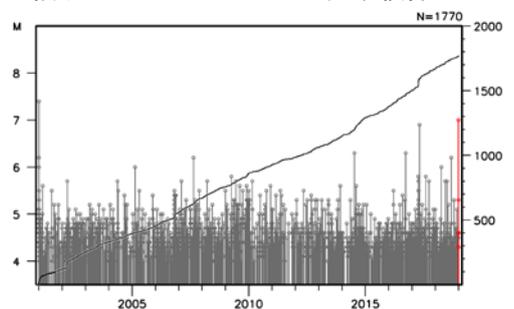
震央分布図

(2000年1月1日~2019年1月7日、深さ0~100km、M≥4.0)

2018年12月29日以降の地震を赤く表示

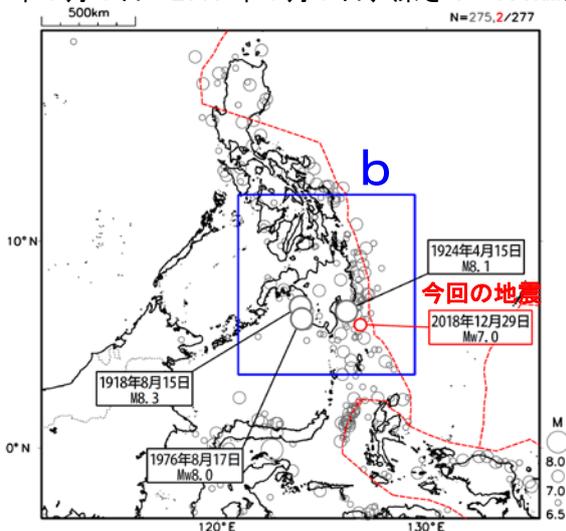


領域a内のM-T図及び回数積算図

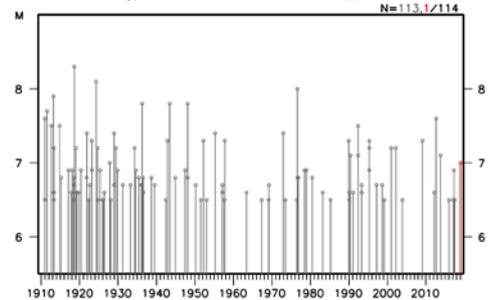


震央分布図

(1910年1月1日~2019年1月7日、深さ0~150km、M≥6.0)



領域b内のM-T図



(この期間は検知能力が低い)

※本資料中、今回の地震、2017年4月29日の地震の発震機構とMwは気象庁、その他の地震の発震機構とMwはGlobal CMTによる。また、震源要素は、1910年から1959年までは国際地震センター(ISC/GEM)、1960年以降はUSGSによる(2019年1月7日現在)。2017年4月29日の地震の被害は、OCHA(UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所)による(2017年5月2日現在)。その他の地震の被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird(2003)\*より引用。

\*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.